

平成二十八年卒業式式辞

寒さの厳しかった冬でしたが、少しずつ日射しに春の気配がし、冬から春へとキャンパスにも春の花の時期が始まろうとしています。

本日、ここに岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業してゆく十六名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご参列の保護者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

また、この度はご多忙にもかかわらず、岐阜県議会議員の先生方をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、ここに岐阜県立国際園芸アカデミー卒業式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。皆様方には平素から本校の教育に多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りしまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんは二年前に大いなる志をもって、花と緑のエキスパートになるべく当校に入学してこられました。その入学式で私が式辞で述べたことを覚えておられるでしょうか。そこでは、スポーツシューズの三大メーカーの一つ、アシックスの創業者、鬼塚喜八郎による「志のあるところに道は拓かれ、求めるところに師は現れる」という言葉を引用し、志をしっかりと立て今を大切に自らが進んで学んで欲しいと述べました。皆さんはきつとそのことを各自が自覚し、すばらしい学びの経験をし、人生の師匠と友人を得られたと確信しています。今、このよき日を迎えるにあたって、皆さんはこのキャンパスで過ごした間の楽しかったことや苦しかったことなど色々な思い出がめぐってくると思います。その思い出は、皆さんを送り出す教職員も同じです。共に学んだ友人、キャンパス、時間など、その思い出はお互いの人生にとってかけがいのないものです。そのかけがいのない経験が、これからの人生の大切な糧となることを願っています。

卒業は日本では業を終えるという意味ですが、アメリカではコメンスマン・エクササイズといい、実習の始まりという意味があります。つまり、卒業は人生のスタートであり、実社会での学びの本番はこれから始まるということです。国際園芸アカデミーで学んだことを誇りとし、自信をもって実社会で生きて行ってほしいと思っています。

ここで社会への門出にあたり、手元にも示しました、これから述べる先人の

言葉を捧げたいと思います。

その言葉は、「置かれた場所で咲きなさい。」で、昨年暮れに九十歳を前に亡くなられるまでクリスチャンとして女子教育に人生を捧げられた渡辺和子氏の言葉です。ご自身の言葉というより、彼女が修道院の生活から三十六歳の若さでノートルダム清心女子大学の学長に任命され、慣れない仕事で思いつめておられた時に、宣教師の方から渡された詩の冒頭の一行がこの言葉だったそうです。その時から、置かれた場に不平不満を持つてはいけない、人間として生まれたからには、どんなところに置かれても、その環境の主となり自分の花を咲かせようと、決心されたということです。また、日ごろ自分の本意ではなく大学に入学してきた学生には「時間の使い方は、そのまま、いのちの使い方なのです。置かれたところで咲いてください。」との言葉を伝えていたのとことです。

皆さんが希望してこれから務める職場は実際勤務してみると、思っていたものでないかもしれません。その時にはこの言葉を思い出し、その場所で自分の花を咲かせようと努力し頑張つてほしいと思います。

ここに卒業を迎えられる皆さんは、それぞれが大きな仕事ができる秘めたものを持っています。その潜在する能力を最大限に発揮できるかどうかは、皆さん自身にあります。自分の将来を創造するためにそれぞれが目的をもって当校で学んでくれたはずです。これからは現場での仕事を通して自らを高め、自分を創造していくのです。そこに人生の楽しみは必ずあるはずです。現状に満足することなく、自分の能力と感性を信じて上を目指してくれることを心より願っています。

最後にあたり、ここにめでたく皆さんが卒業を迎えられるのは、日頃の努力のたまものであるのももちろんですが、同時に周りで支えてくれたご家族と教職員のお陰でもあることも伝えておきたいと思います。その感謝の気持ちを忘れず、それに報いるのは、これからの人生において社会に還元してゆくことに他なりません。そのことをくれぐれも忘れないでください。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉といたします。

平成二十九年三月二日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 上田善弘